

みどりの東北

MIDORI NO TOHOKU

Vol.
149
東北森林管理局

特集

平成28年度第1回国有林モニター
現地見学会を開催
「企画調整課」

岩肌の飯豊連峰主稜線（提供：ひとり登山部）

CONTENTS

■美しい森林づくり

緑の少年団の枝打ち体験・・・・・・・・・・〔青森森林管理署〕

■我が署の名所

山刀伐峠・・・・・・・・・・〔山形森林管理署 最上支署〕



AOMORI AKITA IWATE
MIYAGI YAMAGATA

東北森林管理局

平成28年度第1回国有林モニタ― 現地見学会を開催

―企画調整課

林野庁では、国有林野の管理経営に国民の皆様のご意見・ご提案を役立てるため、「国有林モニタ―制度」を設けています。国有林モニタ―は2年に1度、一般の方々を対象として公募し、2年間の任期中、現地見学会や資料提供を通じて国有林野事業についての理解を深めていただいたうえで、アンケートへの回答や会議での意見交換等の活動を通じ、国有林野事業についてご意見・ご提案をいただくこととしております。東北森林管理局においては、今年4月から2年間、管内5県にお住まいの34名の方に国有林モニタ―としてご就任いただいています。

さて、この度、国有林モニタ―活動の一環として、7月28日（木）に宮城北部森林管理署管内



東北森林管理局及び宮城北部森林管理署の概要説明の様子

国有林野事業の根幹をなす「治山事業」をテーマとして、国民の皆様

北森林管理局企画調整課長が挨拶をした後、企画調整課長、宮城北部森林管理署長より、それぞれ東北森林管理局及び宮城北部森林管理署の概要を説明しました。



荒砥沢地すべりの遠景

の国有林において、今年度、1回目の国有林モニタ―現地見学会を開催しました。今回は、国

加いただきました。

当日は、まず、宮城県栗原市荒砥沢地区に移動し、現地で東

続いて、荒砥沢地区、行者滝地区、放森地区の治山工事現場



荒砥沢地区治山工事概要をパネルを用いて説明

を見学し、平成20年岩手・宮城内陸地震で発生した大規模な地すべりによって滑動した土塊や形成された断崖などがこれ以上滑動したり崩れたりしないよう、栗駒山麓ジオパークとの調整を行いつつ構造物を設置したり植生マットで地山を被覆して安定化させる取組について職員より



行者滝地区治山工事現場及び説明の様子

説明を行いました。モニターの方から、「作業員の安全をどう確保しているのか」との質問に対し、「斜面の上り下りの際に、安全な通路を設けたり命綱を使用したりすることで作業員の安全を確保している」と職員が回答する等、活発な質疑応答が行われました。



放森地区治山工事現場を写真も交えて説明

また、モニターの方々から、「実際に現場を見ることで理解が深まった」等の感想をいただき、今回の現地見学会を通して、東北森林管理局の国土保全の取り組み等についてより一層理解を深めていただけたのではないかと考えております。今後、モニターの皆様にアンケートを実施



放森地区治山工事現場遠景（のり粹工ほか）

し、国有林野事業についてご意見・ご提案をいただく予定です。ご参加いただきましたモニターの皆様、暑い中大変お疲れ様でした。



美しい森林づくり



美しい森林づくり

青森森林管理署

青森森林管理署では、多くの県民の方々に森林・林業に親しみ理解を深めてもらうため、地元のボランティア団体等と連携して各地で植樹祭や森林教室などを行っております。今回はその中から全国的にもその活動が知られているヒノキアスナロ緑の少年団の体験林業について紹介します。

「緑の少年団の枝打ち体験」

6月18日（土）、当署管内の青森市浅虫ダム上流の国有林において、郷土の緑豊かな環境づくりの一環として実施することを目的に、冲館地域緑の募金推進協力会主催による、ヒノキアスナロ緑の少年団を対象とした体験林業が行われました。

冲館地域緑の募金推進協力会

開会式の様子



は、旧青森営林局があった青森市冲館地区の住民が設立した会で、局・署のOBも多数会員になっており、今回の体験林業もOBが主体となって行われました。また、参加したヒノキアスナロ緑の少年団も同じ地区の冲館小学校の3年生から6年生の生徒15名が団員となっています。

当日は朝からあいにくの曇り空で、上着が必要なほど肌寒い天気でしたが、緑の少年団

の子供達は、元気いっぱいに集まってくれました。

体験する作業は、ノコギリを使った枝打ちで、作業開始前に主催者側から作業に当たっての注意事項の説明を受けてから25年生のスギ林に入り、子供達の手の届く範囲で一生懸命にノコギリを使って作業していました。

最初のうちは恐る恐るノコギリを握って枝を切っていた子供達も、職員等から手ほどきを受けるとすぐにコツを覚えて、枝を切るスピードもアップし、「次はどこ？」「もっとやりたい！」と夢中になって作業していました。また、スギに絡んでいるつ

枝打ち作業中



るも切って、「成長の邪魔になるから」と丁寧に外している子もいました。そして誰も怪我することなく無事に予定していた箇所の作業を終えました。

作業終了後の林内は下枝がなくなりすっきりとして、それを見た子供達は自分たちの作業の成果にとっても満足そうにして、林地を後にしました。

この少年団からは実際に林野庁職員になった者もあり、今回参加した子供達も、将来、地元の美しい森林づくりの一翼を担ってくれることを願っています。

記念撮影





平成28年度国民の森林づくり 推進功労者に対する感謝状贈 呈式及び活動報告会を開催

宮城北部森林管理署
仙台森林管理署
技術普及課



活動報告会の様子

林野庁では、毎年度、国有林をフィールドとした森林づくりや森林環境保護等に顕著な功績があった方々に対し、林野庁長官より感謝状を贈呈しております。また、東北森林管理局においても、長官感謝状に準じて東北森林管理局局長より感謝状を贈呈しているところ
今年度は、宮城県仙台市の「里山ねっと赤坂」(平成21年度局長感謝状受賞者)に長官感謝状、同じく仙台

市の「特定非営利活動法人 森林との共生を考える会」に局長感謝状を送ることとし、6月28日(水)に仙台森林管理署において感謝状贈呈式を開催し、その後、両受賞者より国有林等における活動状況についてご報告をいただきました。

各受賞者の功績は次のとおりです。

「里山ねっと赤坂」は、里山体験活動や環境整備活動を通じて地域のコミュニティづくりや自然環境保護への貢献を目的として平成16年10月に設立され、平成17年1月に仙台森林管理署と遊々の森「蒲沢里山体験の森」の協定を締結し、毎年、遊歩道整備、ゴミ不法投棄防止活動、季節ごとの自然観察会、下刈等の林業体験活動等に取り組んできました。このほかにも、広報紙の発行やホームページによる積極的な情報発信、小中学生への環境教育等も行っており、国有林をフィールドとした活動を通じて、地元小中学生や地域住民に対し自然環境保護を普及啓発するとともに、自然に親しむ機会を長年にわたり提供し続け、地域のコミュニティづくりに大きく貢献されました。

「(特非)森林との共生を考える会」は、「健全な森林の育成、森林文化の復権、国産材の利用促進」を目的に平成13年4月に設立され、平成18年から平成22年にかけて、宮城県石巻市の金華山において、松くい虫被害および

二ホンジカの食害跡地の森林再生を目的として、クロマツ約一万本の植栽と下刈を数多くのボランティアとともに実施しました。また、平成22年から平成27年にかけては、宮城県栗原市栗駒地区において、岩手・宮城内陸地震で被災した森林の再生を目的として、広葉樹千二百本以上の植栽をボランティアとともに実施しました。さらに平成25年からは、宮城県仙台市荒浜地区において、仙台森林管理署と「社会貢献の森」協定し、東日本大震災の津波で被災した海岸防犯林の再生を目的としてクロマツの植栽や下刈を行っています。このように国有林の森林被害跡地において、長年数多くのボランティアとともに森林再生活動を行っており、森林環境の保全とその普及啓発に大きく貢献されました。

感謝状贈呈後の活動報告会では、「里山ねっと赤坂」の和田伸太郎代表より「活動を通じて、地域の人々が身近に素晴らしい自然があることに気が付き、自然に親しむようになり、また人々のつながりが生まれました。この受賞を励みに今後も活動を継続していきたい。」と意気込みの言葉がありました。これからこのような国有林をフィールドとした活動を通じて、国民参加の森林づくりが一層推進されることを期待します。



前列左から春日宮城北部森林管理署長、「森林との共生を考える会」菅原理事・阿部副理事長、仙北谷技術普及課長、「里山ねっと赤坂」和田代表、齋藤仙台森林管理署長、「里山ねっと赤坂」橘副代表、後列は受賞団体のその他の出席者の方々

環境美化活動と 木の出前授業

技術普及課

7月13日(水)、秋田市立中通小学校と東北森林管理局との協働により、4年生の児童38名が木製のプランターに花の苗を植え、同校構内と当局庁舎正面に展示する「環境美化の集い」を実施しました。この取組は、植物とのふれあいを通じて児童の豊かな心を育むことを目的として、平成14年度から実施しているものです。またその前段として、プランターの材料でもある木材について児童にもっと知ってもらうため、当局職員による「木の出前授業」を行いました。



「木の出前授業」の様子

可能であり、利用すると地域活性化や地球温暖化防止にもつながるなど、人や環境にやさしい素材であることを説明しました。

授業はやや難しい部分もありま

したが、児童は興味をもって観察を行ったり説明を聞いたりしており、特に「世界一重い木」と「世界一軽い木」の比較実験では歓声があがるなど盛り上がりを見せました。

この授業をきっかけに、児童達が木や自然に対する興味を持ち、人や環境について考えられるようになってくれればと考えています。

授業終了後は、屋外に移動して木製プランター50個にマリーゴールドやブルーサルビアなど6種類の花の苗を植え、土の入ったプランターは大人でも持ち運ぶのが大変な重さでしたが、児童が2人ペアになり校内だけでなく局庁舎まで一生懸命運んで展示してくれました。



環境美化活動の様子

これらのプランターはこれから秋までの間風景に彩りを与え、見る人の目と心を楽しませてくれることと思います。

地方公共団体・ボランティア団体等と連携しグリーン作戦を実施 (流域管理システムの推進に向けた取組)

津軽森林管理署 金木支署

当支署管内の十三・五月女沼(そとめやち)地区は、日本海からの風が強く、後背地に集落及び耕作地等があることから一帯を防風保安林に指定しています。

また、周辺には大和しじみ(十三湖しじみ)の主産地として注目を集めている「十三湖」やプラネタリウムなどの施設がある「中の島ブリッジパーク」などの観光施設があり、多くの観光客が訪れるエリアとなっています。

この五月女沼地区防風保安林付近の海岸には、以前から不法投棄されたゴミや海からの漂着ゴミが散乱し、保安林機能等への影響が懸念されたことから、当支署の流域管理システムの推進に向けた取組として、景観及び保安林の公益的機能維持・向上のため、5月31日(火)、グリーン作戦を実施しました。

グリーン作戦の実施に当たっては、五所川原市の全面協力を得るとともに、ボランティア巡視員・国有林モニターを含む総勢56名で行いました。

空き缶・空き瓶等の漂着ゴミに混じり、テレビ・チャイルドシートなどの不法投棄も見受けられました。参加者の皆さんは、海岸と防風保安林内のゴミを拾い集め、重いゴミはお互い協力し合いながらスムーズに作業を進めたことで、元の美しい海岸保安林となり、無事グリーン作戦を終了することができました。



ゴミ収集車へ集める人々

当日収集した「ゴミ」の量は、ゴミ収集車1台・軽トラック1台にもなりましたが、五所川原市の協力で廃棄物処理場で処分していただきました。

当支署としては、このグリーン作戦を継続的に進めることで地域住民の方々に広く不法投棄の防止を訴えていくことが重要と考えており、今後においても、地元自治体・ボランティア等関係機関と連携を図りながら、不法投棄防止のPR活動や海岸防風保安林の保全及び公益的機能の維持・向上に努め、「美しい海岸林」を後生に継承していきたいと考えております。



グリーン作戦参加者で

防止のPR活動や海岸防風保安林の保全及び公益的機能の維持・向上に努め、「美しい海岸林」を後生に継承していきたいと考えております。

仁別森林博物館で 森林鉄道展を開催

技術普及課

7月16日(土)から8月29日(月)まで秋田市仁別にある仁別森林博物館2階の企画展示室において、企画展「森林鉄道展」を開催しています(入場無料、休館日は火、水、木、但し8月11日(木)は開館)。

森林鉄道は、明治42年日本で初めて導入され、昭和40年頃まで活躍しました。丸太を運ぶだけでなく、地域の人々の交通手段としても大変重宝されました。

秋田市仁別では、明治42年(1909年)に秋田停車場(秋田駅)東側を起点にして仁別林道事業所付近(仁別字家ハツシ)まで12.3kmの森林軌道が開通し、その後新設延長しながら、旭又、軽井沢、砥沢、奥馬場目方面まで森林軌道が延びました。

この森林鉄道展では、特に秋田県内の森林鉄道を集集し、当時の写真や開設から廃止までの路線図などの資料を展示して紹介していきます。



森林鉄道展の写真展示

また、博物館の入口には大正10年にアメリカのボールドウィン社で製作された蒸気機関車、そして博物館内には昭和39年まで旧能代宮林署仁鮎製品事業所で活躍したディーゼル機関車酒井ボ-式8t機を常設展示しています。

展示を見た来館者の方からは、「森林鉄道の時代と林業の盛んな時期の頃の様子が味わえた」、「貴重な資料が色々あって興味深かった。」などの声が聞かれ、森林鉄道への関心の高さを感じました。



森林博物館内のディーゼル機関車

森林鉄道展は学校の夏休み時期に合わせて開催していますので、この機会に家族そろって仁別森林博物館や仁別国民の森を訪れてみてください。



浜辺の植物

ハマヒルガオ(ヒルガオ科)、オカヒジキ(アカザ科)、ハマニガナ(キク科)、ノブドウ(ブドウ科)、スカシユリ(ユリ科)、オオマツヨイグサ(アカバナ科)

盛岡森林管理署 森林技術指導官 松尾 亨

浜辺で育った私の夏休みは、海で泳ぎ、砂浜で寝、魚釣りや花火で遊んでばかりでしたが、終りの寂しさとともに宿題の山に追われて「海と山」相互の思い出でした。今では、自然海岸も少なくなり見つけにくくなった浜辺の植物を紹介します。

まずは、砂浜でしっかり根を張っている3種です。ハマヒルガオは、つる性でピンクのラッパ状の花と、丸くて艶のある葉が特徴。朝顔に対して昼に浜で咲くことが由来。オカヒジキは肉厚で針状の葉が特徴で初夏に黄緑色の花をつけます。由来は海藻のひじきに似ていることから。食用出来ます。ハマニガナは、ジシバリに似ており、這うように生育し、飛砂に埋もれても立ち上がりタンポポのような舌状花が特徴。葉が銀杏に似ていることから別名ハマイチョウ。これらは葉にクチクラ質があり塩害や水分の蒸散を防いでいます。

次の3種は少し陸よりで見かけます。ノブドウはカラフルな色の実が特徴のつる性で低木に絡みます。ブドウ科ですが食用出来ません。スカシユリは岩場の隙間など土壌のあるところに根を張りたくましく生きています。花はオレンジ色で上向きに咲き斑点があります。名の由来は、花びらの間が透けていることから。オオマツヨイグサは明治期に渡来した帰化植物で、月見草や宵待草の名で親しまれています。一夜花は、ガなどの昆虫を引き寄せ受粉します。由来は宵を待つ間に咲くことから。

海浜植物との出会いは小学生の頃、理科の授業がきっかけで、多肉で丈夫な葉や、砂に深く張った根の特徴を意外に覚えています。あれから何十年か過ぎ、私が遊んだ浜辺は護岸や人工のビーチになりましたが、残された浜辺はこれからも花が揺れ、少年が走っている浜辺にしたいと思う夏でした！



ハマヒルガオ



オカヒジキと根



ハマニガナ



ノブドウ



スカシユリ



オオマツヨイグサ

『MKR』民（民有林）国（国有林）連携



山形県寒河江市 佐竹弘一
Kouji Satake

「父ちゃんて何（なに）仕事（しごと）すったんだ？」
「木（き）植（う）えて空気と水、作ったなよ。」「もう
がっか？」「100年ただねど、わがんなあ。」「息子
が小学校に入った頃の会話です。」

先祖代々、山村で農林業を営む家に生まれた私は、
小さい頃より里山（民有林）の恩恵を受け育ちました。
杉三代（約100年）当時は木材価格が安定しており木材
生産で得た収益で生活し伐採跡地に植林する余裕さえ
ありました。懐かしい話です。祖父が「植林」し、父が
「育林」し、私が「恩恵」を得るといった、他の業種では
考えられない「長いスパン」の経営が「林業経営」なの
です。しかし、現在は木材価格の下落により、収益は伐
採するまで費やした経費の半分にすぎない赤字経営な
のです。

また、現在は山村の過疎化や木材価格の低迷により
里山への関心が薄れ、5、6年前に認定を受けた山形
県「林業士」の任務である「地域の模範となる林業経営」
「後継者の育成」「県民への森林学習」なる活動が困難
な状況にあります。人工林において最も重要な保育管
理（育林）が行われず、「森林荒廃」が深刻化しています。

適切な時期に適切な保育管理をして行かないと、未来
に大きな汚点を残すことになるのは明白です。木材生
産だけにこだわらず「100年先の自然環境」のあり方を
見据え森林整備をする必要があると思います。また合
わせてそうした「教育環境」の整備も必要だと思いま
す。

こうした中、平成25年11月、山形県知事が県内市町
村長の賛同を得て「やまがた里山サミット」を設立し
ました。地域の豊かな森林資源を「森のエネルギー」「森
の恵み」として活かしていく「森林（もり）ノミクス」
を宣言し、林業の振興を図りながら、地域の雇用を創
出し、地域活性化に向けて取り組みを進めています。
昨年11月には、この「森林（もり）ノミクス」を全国に
発信し、さらなる林業の振興、地域活性化に結び付け
ていくことをねらいとして、「第一回全国森林ノミクス
サミット in 山形」開催したことを紹介します。

そうした中で、国民の意見を反映した取り組みの一
環として「国有林モニター制度」があると知り2年間
（国有林）と（民有林）が共有できることがあるのでは
と学びました。

国土の7割を森林が占める中、国有林と民有林が同
じ山側の意見として共有できる事項をまとめ、これま
での木材生産を重視するのではなく、森林の持つ公益
的機能の重要性を訴え多くの人の理解を得ながら、100
年先の自然環境のあり方を見据え森林整備をすすめる
世代に引き継いでいかなければと切に思います。

INFORMATION

新任者略歴紹介 8月1日付け

計画保全部長

しまうち あつみ
島内 厚実
(宮崎県)



H 2・4 農林水産省入省
H22・4 林野庁 経営課課長補佐（経営育成班）
H24・8 四国局計画課長
H26・4 関東局計画課長



森林官からの手紙



前略、叶水森林事務所より

置賜森林管理署 叶水森林事務所 森林官 丸山 友由



夏のおぐに湖

私が勤務している叶水森林事務所は、山形県の西南端に位置する小国町に事務所を構えています。

叶水地区の特色として、町内10箇所の観光ワラビ園のうちの4箇所が叶水地区にあり、春は早朝からワラビ採り客で賑わいを見せています。また、町内唯一のパークゴルフ場があり、春から晩秋まで営業しています。現場に行く際に通りかかると多くのプレーヤーが連日プレーを楽しんでいるのが見受けられます。冬は特別豪雪地帯に指定されている小国町、人の出入りが極めて少なくなる叶水地区ですが、近年、「白い森おぐに湖」のワカサギ釣りが流行しており、町内外からたくさん釣りが客が訪れ、釣り人のテントで「白い森おぐに湖」を埋め尽くしています。



ブナ林

当森林事務所の管轄する国有林は横川とその支流である大石沢川等の流域に位置し、ブナ、ナラ等の天然林及びスギ人工林から構成されており、小国町東部の国有林約7,779 haを管理しています。その中には「白い森おぐに」の象徴であるブナで構成されている植物群落保護林が設定されており、美しい四季のうつろいを見せてくれます。

業務体制は地元出身の行政専門員1名、非常勤職員1名が在籍しており、森林官としても国有林マンとしてもまだまだ未熟である私に、山のイロハはもとより境界や施業履歴等を教えて頂いています。どのように山を導いていくか悩んだ



事務所前にて

時、この2人の助言には大変助けられています。時には地域の方と私の架け橋になって頂き業務が円滑に進んだり、地域に溶け込ませてくれた貴重な存在で、環境にとっても恵まれていると日々感じています。

現在は、請負事業の監督業務や林野巡視、境界保全業務等にチーム叶水3名であちこちの現場に飛び回っています。まずは公務災害を起こさないように安全第一を念頭に置いて業務に取り組み、己のレベルアップのために日々勉強を積み重ねて、先人たちが築いてきた国有林を次の若い世代にしっかりとバトンを渡して参る所存です。



我が署の名所

山刀伐峠（なたぎりとうげ）

山形県 尾花沢市
最上町

山刀伐峠は、最上町と尾花沢市を結ぶ峠のひとつです。

標高は470メートル程度ですが、北の最上町側は急峻で、南の尾花沢市側は比較的なだらかな地形をなしています。この形状が昔、山仕事あるいは狩の際にかぶった「なたぎり」という冠物の形に似ていることから、峠名が発生したとされています。

山刀伐峠は、中世からの南部地方（現在岩手県と青森県の一部）と最上（現村山、山形方面）を結ぶ要路であったと伝えられています。天政8年（1580）には、山形城主、最上義光の軍勢がこの峠を越えて、時の小国（最上町）領主、細川氏を攻め入ったと言います。江戸後期頃には、峠のふもと一剋に新庄藩が口止め番人を置いていたが、そう交通の頻繁な峠ではなかったでしょう。

元禄2年（1689）5月17日、門弟の曾良を伴った芭蕉は、屈強の若者に案内され、この峠を越えて尾花沢市へ向かった。芭蕉はその時の印象を「おくのほそ道」に、

「高山森々として一鳥声きかず……」

というくだりの見事な文章を表現しています。

現在、芭蕉がたどった「歴史の道」は遊歩道として整備されています。この道は「二十七曲り」と言われるほどの曲がりくねった山道でうっそうとしたブナ林に覆い尽くされ手つかずの自然が残っています。

山頂付近には駐車場、トイレ、簡単な休憩所が整備されており、芭蕉の時代に思いを馳せながらゆっくりとした時間を過ごすことができます。

山形森林管理署 最上支署

〒999-5331 山形県最上郡真室川町大字新町字下荒川200-11
TEL 0233-621212 FAX 0233-621270



◎交通アクセス

車で

- ・JR新庄駅より・・・30分
- ・JR赤倉温泉駅より・・・15分
- ・古川ICより・・・90分

※最上町営バス一剋公民館停留所より山刀伐峠最上口まで約1.2Km

